

MIMIHARA HOSPITAL CROSS TALK

異文化

コミュニケーション
カンファレンス
クロストーク

Vol. 1

「自分らしくこの地域で暮らしていく」
～まちに開く
ケアとアートの交わり～

守本陽一
大平路子
上田假奈代

2024.12.3(火) 18:00~20:00

耳原総合病院2階 みみはらホール

無料・お申し込み不要

異文化コミュニケーションカンファレンスとは？

2015年新病院の建て替え以前の2012年から『異文化コミュニケーションカンファレンス』を前病院長の発案で始め、コロナ禍が始まる2021年まで50回継続。

医療者にも医療だけではなく広い視座を持つてほしい、というコンセプトでさまざまな分野の方々を招聘し、人間性の醸成やナ

ラティブな医療に繋げることをねらい開催してきました。

再開第一弾として、2023年12月5日に近畿大学教員のアサダワタルさんをお呼びし、地域における「住み開き」についてお話をいただきました。

2024年度(令和6年)堺市文化芸術活動応援補助金事業

異文化コミュニケーション カンファレンス クロストーク開催

日時 12月3日(火) 18:00~20:00

場所 耳原総合病院2階 みみはらホール

無料・
お申込み不要

主催：社会医療法人同仁会 耳原総合病院
お問合せ：虎頭(こうとう) 070-5581-1311

プロフィール

▼こちらから
HPでご確認ください



みみはらグループはこれまで無差別・平等を掲げ、地域の「よりどころ」「いのちのとりで」として歴史を重ねてきました。『みみはら2030年の樹』を実現するべく、これからも地域の方々の生活と健康を支えながら、だれもが「自分らしい人生」を送れるようにしたい。そんな具体的な地域包括ケア事業として、鳳クリーツの建て替えと堺区大仙西に「コミュニケーション棟」を来春にオープンします。豊岡で図書室「だいかい文庫」をまちに開く医師の守本陽一さん、大阪金ヶ崎でゲストハウスのふりをしてまちに溶け込む上田假奈代さん。お二人のお話を聞きながら、堺でさらにケアとアートを交差させるにはどうしたらいいのか？を皆さんで考えていただきたいと思います。

ネガティブフィードバックとは、業務改善を促すために問題点を指摘し伝えることです。問題点を指摘することは職員の成長のために必要なことです。ですが、「モチベーションを下げてしまうのではないか」「傷つけてしまうのではないか」などの懸念から避けてしまいがちです。

日頃の業務や評価面談における効果的なフィードバック方法を学ぶた

め、職場長を対象にネガティブフィードバック研修を開催しました。講師には産業医の平井医師をお迎えし、対象外の職員の見学希望も多数あり大盛況となりました。

「何回説明しても伝わらない」はなぜ起るのか、ネガティブフィードバックの心構えについてなどを、人の思考や感情に注目しながら講義が進みました。

研修を開催しました！

問題点を指摘し業務改善

みみはらグループでは、民医連方針や人権について学ぶ場として、アドバイスを除く全職員対象研修「制度教育」を毎年10月から3月までの期間に実施しています。

今年度はコロナ禍後初の集合形式で行います。その第1回目が10月21日に開催され、21人の職員が参加しました。

学習テーマは「無料低額診療事業の歴史とみみはらグループが取り組む

2024年度制度教育がスタートしました！

みみはらグループでは、民医連方針や人権について学ぶ場として、アドバイスを除く全職員対象研修「制度教育」を毎年10月から3月までの期間に実施しています。

研修は個人情報保護の学習動画視聴と無料低額診療事業を通じて社会保障制度を学び、人権や医療権を考える内容です。

無料低額診療事業推進委員でソーシャルワーカーの窪田さんと田中さんが講師となり、「お金がないからと治療をあきらめていませんか？」と題した講義で、生存権や医療制度の解説に加えて、事例を交えて進行されました。

講義後は『無料低額診

療事業を必要としている

方に情報を届けよう』と題したグループワークを行いました。無料低額診

療事業の歴史とみみ

はらグループが取り組む

ながるヒントを見つける

ことができました。

ドバツクを行い、どのように感じたか、何が良かつたか、改善すべき点は何かを話し合い今後について

(同仁会本部採用育成部
森下 育美)

ながるヒントを見つける

ことができました。

ながるヒントを見つける

<p